

「令和6年度大学における文化芸術推進事業」中間報告会

伝承を担うフィールドから

まなび、

ともにつくり、

地域へつなぐ

アートマネジメント人材育成

— 伝統音楽・芸能の地域レガシーによる新たな価値創出を目指して —

東京音楽大学

TCM

TCM

Tokyo College of Music

東京音楽大学

報告者：東京音楽大学 音楽文化教育専攻
准教授 福田裕美

1. 事業の狙い・趣旨

1-1.事業の背景

- ・アジアの伝統音楽・芸能のアートマネジメントが担う役割の範囲が、公演等の企画・実施という範囲を超えて「伝統音楽・芸能を今日の社会につなげ、且つフィールドにおける伝承を未来につなげることまでを含むもの」。

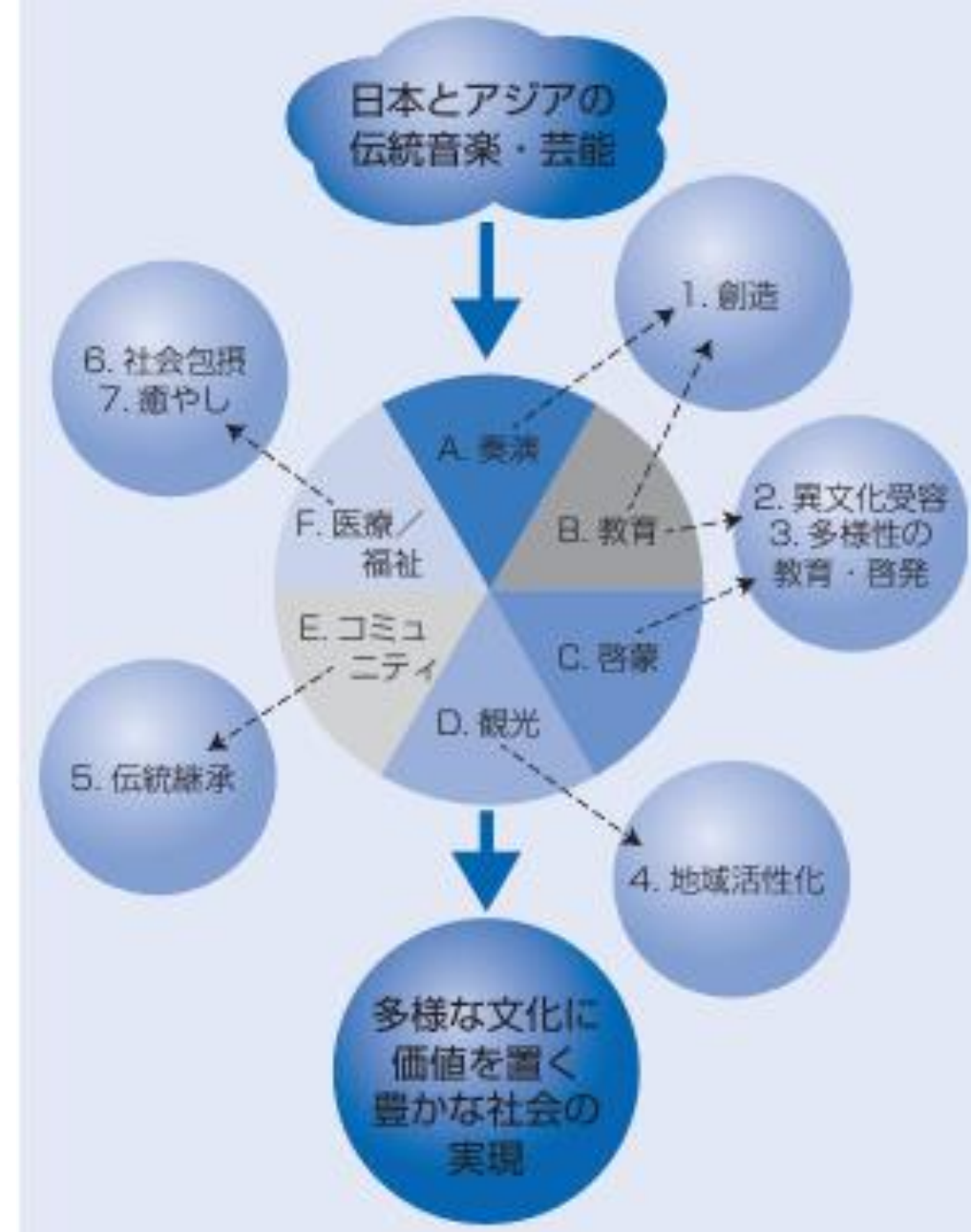
- ・2020年以降の新型コロナウイルス拡大により、多くの祭りや公演が中断。

- ・「社会につなげ、伝承を未来につなげる」アートマネジメントの役割は、伝統音楽・芸能の鑑賞という枠から大きく踏み出した地域のアイデンティティを再認識する機会の創出という点において、今後より重要になる。



なぜ、伝統音楽・芸能なのか？

- コンテクストの面からの地域の文化資源としての価値。
- 伝統音楽・芸能それ自体がもともと持つ、多様な価値を認めあいながらコミュニケーションを促すという特質が、福祉や教育、多様性の教育・啓発、コミュニティ形成等と結びつきやすい。



東京音楽大学 × 伝統音楽・芸能

「付属民族音楽研究所」昭和50（1975）年設立

- 西洋音楽のみならずアジアの音楽の教育と研究について約50年間の公演やワークショップ等の実績がある。
- 伝統の継承とあわせて新たな音楽表現の創造に力を入れてきた点も特徴。
- これまでに構築してきた各種公演やワークショップ、教育活動のノウハウや人脈、膨大な資料や楽器等の資源を有している。
- 以上より、アートマネジメントに関わる者が情報を共有し利活用できるネットワークの構築を目指し、情報の蓄積と発信、情報と人材のクロスセクションの役割を担うことが期待できる。



1-2.人材育成の社会的意義

① 法改正による人材育成の必要性

平成29年文化芸術基本法改正/平成31年の文化財保護法改正

◇ 地方自治体の役割が増加

- ・ 地域全体での伝統音楽・芸能継承の必要性
- ・ まちづくりへの活用



② 在留外国人の増加による人材育成の必要性

◇ 社会における重要な課題

- ・ 多様な文化背景の人々のルーツとアイデンティティを尊重
- ・ 社会包摂を涵養し共生を図る

➡ **伝統音楽・芸能はこれらの課題の解決に貢献**

1-3.目指す人材像

◇ 人材育成の三つの目標

①

伝統音楽・芸能およびそれらを伝承するフィールドを直接体験

②

伝承のフィールドのリアルな姿とそれを取り巻く地域・社会の課題に向き合う

③

様々なフィールドの間との連携や若い世代への関心喚起、伝統音楽・芸能を社会で活用していく手法を学ぶ

◇ 期待される成果

地域レガシーとして伝統音楽・芸能の価値を捉え直す力の育成

企画の立案・実践に加え、フィールドのリアルを社会に発信し、フィールドからの相談にも応じられる「コーディネーター」としての力の育成

フィールドと社会をつなげ、地域社会の発展のために多様な活動を展開する力を育成

1-4.本事業で重視する“フィールド”

a)伝統音楽・芸能を伝承する個人・組織やそれを支える地域コミュニティを含む「**伝承を担い未来につなげるフィールド**」

(伝統音楽・芸能そのもののみならず、それを伝承する人や組織、支える地域コミュニティも含めた伝承に関わる「現場」を指す)

b)a)のフィールドの範囲を超えて、福祉や教育、多文化共生等の「**連携し多様な実践を展開するフィールド**」

(福祉や教育等の個々の社会的課題に対し実践を行う施設や機関のみならず、そこに関わる当事者と関係者も含めた「現場」を指す)

2. 事業の内容

2-1.3カ年の学びの流れ

企画・実践力

課題発見

知識

フィールドからまなぶ (令和4年)

受講生が企画を立案・構成するにあたって、伝承の現場に足を運び、体験等をおして学ぶ。

実践セミナー：
フィールドへの「留学」と成果の発信

基礎講座

フィールドとともにつくる (令和5年)

伝承を未来につなげ、伝承を社会（地域が抱える多様な課題）につなぐための企画制作を検討する。

企画制作研修
(企画立案)

実践セミナー：
芸能体験講座

基礎講座

フィールドと地域をつなぐ (令和6年)

地域の人たちとともに伝承の未来、当該地域が抱える課題について考え、企画をブラッシュアップし、実践する。

企画制作研修
(実践)

基礎講座

2-2.企画制作研修の紹介(令和5年度・令和6年度)

企画A：祭囃子×インクルージョン社会での生涯の学び
「祭囃子を通じたソーシャル・インクルージョンの実現」

企画B：三匹獅子舞×文化コミュニティの形成
「つながる・ローカル・三匹獅子舞-民俗芸能がおりなす
コミュニティ形成-」

企画C：インド音楽×多文化共生の実現
「インドタウンのコミュニティミュージック2024」

2-3.企画A: 祭囃子 × インクルージョン社会での生涯の学び

「祭囃子を通じたソーシャル・インクルージョンの実現」

- このプロジェクトでは、音楽によるソーシャル・インクルージョン(社会的包摂)を可能にするものとして、地域における祭囃子を取りあげた。
祭囃子の持つ総合的な表現力、ノンバーバルなコミュニケーション力を生かすことで、地域社会の中で多様な背景を持つ人々の相互理解につながると考えた。
- 令和5年度は東京都の**豊島区の富士元囃子**と**小金井市の貫井囃子**を題材として研修を行った。
令和6年度は**貫井囃子**を対象に、多様な背景を持った人々が祭囃子を通してつながる企画の制作・実施の研修とした。

《令和6年度プログラム》

- ・地域における「貫井囃子」を知る(8月～9月)
- ・企画実践に向けた講座(8月～9月)
- ・「貫井囃子でつながるワークショップ」企画・実施(10月～11月)
- ・企画の実践のまとめ(評価)(12月～1月)



2-3.企画A: 祭囃子 × インクルージョン社会での生涯の学び



↑ 富士元囃子の囃子と獅子舞の体験 (R.5)

実演の見学・体験を通じた理解
 ・周りの人と音で同調することの体験
 ・演じ手・舞手の気持ちの体験



↑ → ワークショップの企画 (R.6)

地域の多様な人々が祭囃子でつながっていく企画の実施
 ・企画・制作・実施による育成
 ・参与観察による評価

令和6年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業
 ワークショップ

みんなで
 のぞいてみよう

おどってみよう! NUKUBAYASHI DANCE
 Let's トライ!

どなたでも
 参加できます

聞いて、見て、
 やってみよう

参加費無料
 Free

のせかい
 貫井囃子
 わたしはだれでしょう!

2024年 貫井囃子ワークショップ
 第1回
 10月26日(土) 18時
 (開場は15分前)
 第2回
 11月30日(土) 15時30分
 (開場は15分前)

2回の講座内容は異なります。
 それぞれ約1時間半のプログラムです。(定員40人 先着順)

お申込み↓

 申し込み用QRコード

主催:
 東京音楽大学
 文化庁補助事業推進室
 kikakua2024@gmail.com
 電話 03-3982-3196

文化庁
 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

TCM 文化力
 POWER OF CULTURE

2-4.企画B:三匹獅子舞×文化コミュニティの形成

「つながる・ローカル・三匹獅子舞-民俗芸能がおりなすコミュニティ形成-」

- 地域の人々をつなげ、その土地のアイデンティティを形成するために大きな役割を果たす地域の伝統芸能。最近では、コロナ禍の自粛を経て人々が疎遠になり、伝承が難しくなっている地域も見られる。
- このプロジェクトでは、三匹獅子舞を取り上げ、三匹獅子舞と地域をつなぎ、地域を超えて担い手と担い手をつなぎ、未来へ継承していくための方法を考案した。
- 令和6年度は、三匹獅子舞の活動が盛んな福島県いわき市における地域の取り組みの見学、埼玉県川越市の三匹獅子舞ゆかりの場所をめぐるローカルツアーと、地域で実際に使われるMAPづくり、12月に伝承者や一般の人々が交流する“獅子カフェ”を開催。

《令和6年度プログラム》

- ・いわき市の三匹獅子舞見学(9月)
- ・川越の街から獅子舞につながるまちあるきとオリジナルMAPづくりの実践(9月～10月)
- ・獅子が集う「獅子カフェ」の企画・実践(12月)



2-4.企画B:三匹獅子舞×文化コミュニティの形成



←三匹獅子舞同士の交流をとおした課題の発見(R.5)

受講生も含む三匹獅子舞団体同士の継続的な交流・課題共有へと発展



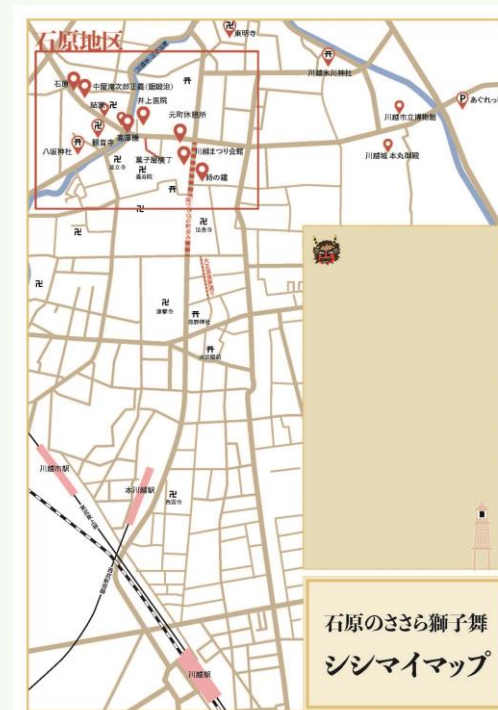
↑いわき市の獅子舞の見学 (R.5)

練習を見学する中で担い手の思いに触れる



↑川越まちあるき:オリジナルMAPづくりの準備(R.5)

市内の一般参加者とも交流



↑オリジナルMAPづくりの話し合い (R.6)

つくったMAPは11月3日の市立博物館での実演で配布予定!



2-5.企画C: インド音楽 × 多文化共生の実現

「インドタウンのコミュニティミュージック2024」

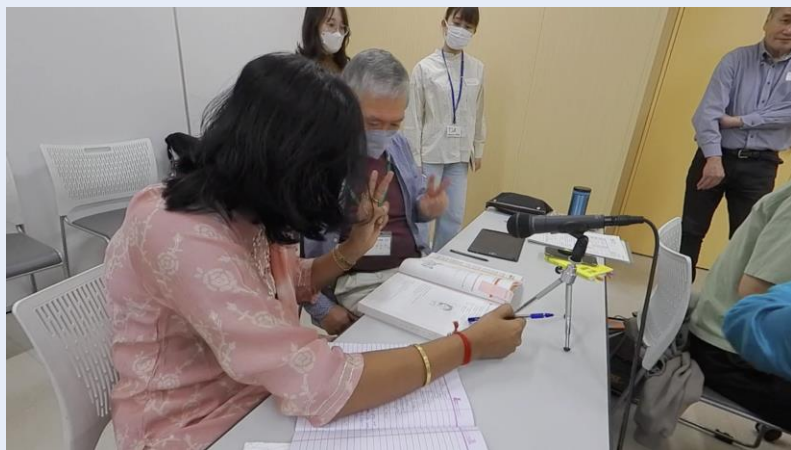
- 現代社会の多様性から生じる社会課題の解決をめざし、音楽の「音」と「リズム」による在留移民社会（インドルーツの人々）と日本人の交流の場を創出し多文化共生を図った。
- インドルーツの方々、その日本語教育支援に携わる人々、国際交流を図る市民団体の協力により、日本語とインドの言葉を音楽を通して知るワークショップを企画・開催。

《令和6年度プログラム》

- ・コミュニティを知る(9月)
- ・コミュニティミュージックの制作-1:
インドのことばと日本のことば(10月)
- ・コミュニティミュージックの制作-2:
日本とインドをつなぐ言葉と音楽(11月)
- ・コミュニティミュージックについて :ふりかえりと今後の展望(12月)



2-5.企画C: インド音楽 × 多文化共生の実現



↑ 日本語教室の見学 (R.5)



↑ コミュニティミュージックワークショップを企画 (R.5)



↑ インドにオノマトペはある？ (R.6)



オノマトペ ↔ 音楽の関係は大事!



オノマトペを示すアートワークを使ったワークショップの計画づくり



日本語や生活について、インドルーツの住民と日本語ボランティアの方を招いてディスカッション

2-5.企画C: インド音楽 × 多文化共生の実現



3. 育成成果

3-1.3カ年の受講者(育成対象者)数

令和4年度:全受講者 80名

令和5年度:全受講者102名

令和6年度:全受講者 76名(令和6年10月6日時点)

※育成対象者のみ(一般参加者のぞく)

3カ年の受講者数は**203名**

うちリピーター:**43名**(3カ年受講16名/2カ年受講27名)

さらに・・・前回の採択期間(2019-2021)受講歴あり:**37名**

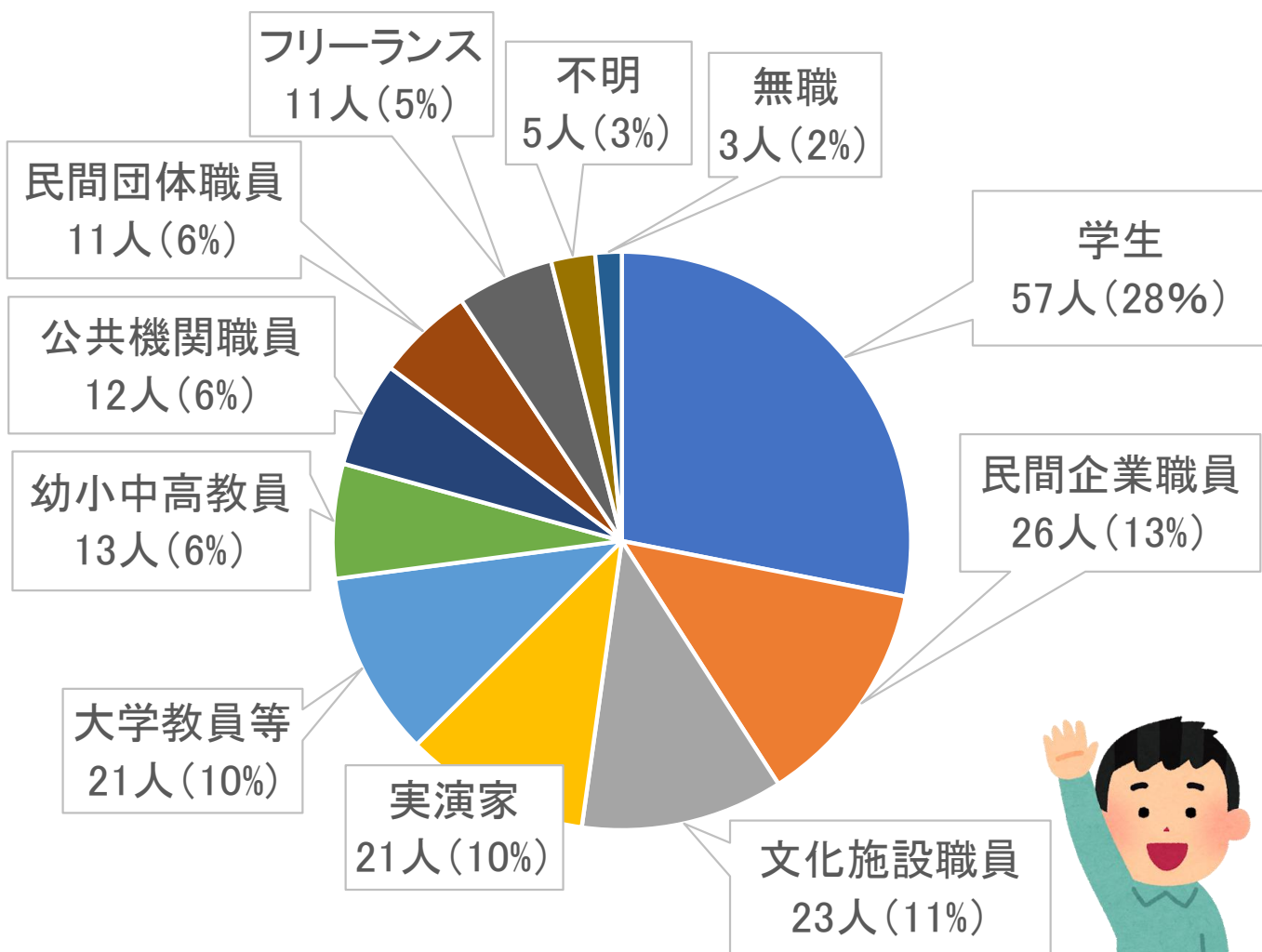


受講者の声「継続して学びたい講座」

継続した学びの実現!

3-2.受講者の職業内訳とアートマネジメント従事者の声

《全受講者203人の職業等》



《うちアートマネジメント従事者71人の職業》

職業	人数
1. 文化施設職員	23人
2. 実演家(自ら企画運営もする)	16人
3. 公共機関職員 (文化財、文化、福祉、産業など)	10人
4. フリーランス(企画運営)	9人
5. 民間団体職員(企画運営)	7人
6. 民間企業職員(企画運営)	5人
7. 大学職員(音大で演奏会担当)	1人



- ◇ 文化施設職員「担当している今後の民俗芸能事業に生かしたい」
- ◇ 民間団体職員「伝統文化の支援を行っており、スキルアップできた」
- ◇ 実演家「自身のやっている唄や踊りをどのように伝えていくか学ぶことができた」

3-3.潜在的なアートマネジメント従事者数とその声

全受講者203人 — アートマネジメント従事者71人

= (仕事として)アートマネジメント従事者ではない**132人**

うち 社会人**45人**は仕事とは別に活動

うち 学生 **57人**もすでに活動、

あるいは将来的に仕事に就くことを希望

この102人も潜在的な従事者と言える



受講理由

「将来、アートマネジメントに関わる職業に就きたい」

「将来、伝統芸能の公演を企画したい」



この4月から観光業に就いた学生や、毎年受講する中でアートマネジメント関係の仕事に就いた人も！

3-4.成果の発信

■ 2冊目のハンドブックの刊行(令和7年3月予定)



前回の採択事業で作成したハンドブック(令和4年2月刊行)は、すでに文化施設の研修や大学の授業でテキストとして活用されている実績がある。

■ 3カ年の総括シンポジウム(令和7年3月予定)

4. 今後の展開予定(将来展望)

4-1. 付属民族音楽研究所における今後の展開

- WEBサイト「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメント人材育成プラットフォーム(TCM-JAM)」(過年度事業で構築)
 - 付属民族音楽研究所で継続運営し、これまでのプログラムの映像等のデータを公開
- 上記以外の公開できないデータも含めてあらゆるデータは付属民族音楽研究所において管理し引き継ぐ。



4-2. 付属民族音楽研究所から社会に向けて発信

高い専門性を保持しながら、さまざまな伝統音楽・芸能を未来と社会につなぎ、
伝承する国と国・地域と地域をつなぐクロスセクションとしての役割を發揮

東京音楽大学 アジアの伝統音楽・芸能を推進するためのプラットフォーム



本事業の6年間の成果 (2019年度～2021年度採択事業も含む)

多彩な国内外の人的資源、音源・文献資料等の物的資源、長年の経験に基づくノウハウ

東京音楽大学付属民族音楽研究所(1975年創立)

多彩な国内外の人的資源、音源・文献資料等の物的資源、長年の経験に基づくノウハウ

ご清聴ありがとうございました